

## 子どもと自転車

子どもはなぜ自転車に乗れなければならないのか、また子ども自身もなぜ自転車に乗りたがるのか。

子どもが自転車に乗るという事は、けして義務でもなく、ましてや学校の宿題でもありません。また大人になってから覚えるのが大変なので今のうちに乗らなければという焦燥感からでもありません。

それは必然だからです。

子どもたちは成長とともに家族以外の同年世代の友達、仲間という新たな社会に出会い、その何とも言えぬ共に過ごす楽しさにいつの間にか魅入られてしまいます。

おのずと家族での生活から友達や仲間へと一緒に過ごす時間も大幅に増えてゆき、人と人との繋がりも大きく変わってゆきます。

そんななか、仲間の一人が自転車で活動するようになり行動の速さも行動範囲も今までの家の近くから少しずつ遠くへと広がりを見せてゆきます。

初めのうちは自転車に乗れない子も一生懸命走ってついてゆきますが、自転車に乗れる子と乗れない子の差は徐々に広がってゆき、自転車に乗れない子はついてゆけなくなり、自転車に乗れる子は乗れない子のスピードの遅さを疎ましく思うようになり自然と自転車に乗れる子同士が集まるようになります。

子どもが自転車に乗るという事は体力をつけるという事やバランスを養う事には十分な効果も期待できますが、それよりも家の近くという社会生活区域からもっと大きな社会へ活動範囲の広がりを見せるという事で交通ルールや常識という生活ルールを覚えること、自分の活動範囲を広げることにより、観るもの、感じるもののすべてにおいて新たな経験や体験をすることができるという事が大切であると思います。

子どもが自転車に乗れるという事は子どもたちが社会に参加するための大きな1歩となることは確実です。

子どもが自転車に乗るという事はスピードを早くとかできるだけ長距離でとか格好良くとかが問題ではなく子どもが社会に参加するために必要だからという事が大切です。

ただし昨今では子どもが安全に自転車に乗れる環境が少なくなり、自転車での活動に制限があることは否めませんが、これを良い機会ととらえて交通ルールなどの社会のルールを親子で学び、また同時に危険についても学ぶことが大切です。